

生物

共通テスト初年度について

傾向

- 難易度は2020年度センター試験や2017年度・2018年度試行調査より下がった。また、2020年度センター試験と比べると、考察問題の比率が高まったが、マーク数・選択肢数が減少したため、負担感は軽くなった。
- 大問6題だが、実質は中間8題であり、題材数としては従来のセンター試験より減った。また事前の予告通り全問必答となった。
- リード文のうち、第3問は会話文を含み、第5問文Bは生徒が「課題を発見し解決方法を構想する場面」であり、「『どのように学ぶか』を踏まえた問題の場面設定」の問題であった。
- 2018年度試行調査と同じく、各中間の設問は1つの大分野に縛られることなく、題材に応じて複数分野から出題された。

出題内容

大問	出題内容	テーマ	難易度		
			やや易	標準	やや難
1	細胞と分子、遺伝情報の発現、生命の起源と進化	ラクトース耐性の出現と拡散		●	
2	生態系、個体群と生物群集	トカゲの種間関係とすみわけ	●		
3	代謝、個体群と生物群集	林床の優占草本の光合成の季節変化		●	
4	動物の反応と行動、個体群と生物群集	若鳥のさえずりの学習	●		
5	A 植物の発生	茎頂分裂組織からの葉の分化		●	
	B 代謝、植物の環境応答	根の緑化に関する探求活動		●	
6	A 動物の発生	タンパク質の分布と眼の形成		●	
	B 動物の反応と行動	オタマジャクシの光受容と眼			●

パワーマックスについて

編集方針

- 2021年度本試験に合わせた形式の模試を中心に、過去2回の試行調査に合わせた形式の模試を加え、計5本掲載
- さまざまな出題形式に対応できるよう、最新の本試験だけでなく、試行調査で出題された形式も盛り込んだ**Z会オリジナル問題**

書籍の特長

- 第1回・第2回は2021年度本試験に合わせて大問6題、第3回～第5回は2017年度・2018年度試行調査に合わせて大問5題の出題であり、各大問に複数の大分野からの問題が含まれるようにしました。
- 共通テストで新しく導入された出題形式の問題を取り入れ、1冊を通じて対策できるようになっています。
- すべての回で**解答番号は全問通し番号**としてあります。

パワーマックス 生物 出題一覧

	大問	出題内容	解答 目安 時間	難易度		
				やや 易	標準	やや 難
第1回	1	A 炭酸同化	5分	●		
		B ジャガイモの浸透圧	7分	●		
	2	シロイヌナズナの上下軸の決定	12分	●		
	3	A 活動電位の発生と伝導速度	5分	●		
		B オプシンの進化	7分	●		
	4	ハタネズミの繁殖習性	8分	●		
5	進化と分子系統樹解析	8分	●			
6	ゼブラフィッシュの硬骨形成	8分			●	
第2回	1	核酸の構造、RNAウイルス	6分	●		
	2	化学合成と硝化作用	7分		●	
	3	A 育種とバイオテクノロジー	7分		●	
		B 倍数性	7分		●	
	4	ニードルリーフの環境適応	8分			●
	5	A 生態系のバランスと種間関係	6分		●	
B 各種生態系の回転速度		7分		●		
6	分子時計	12分		●		
第3回	1	A 葉緑体と陸上植物の進化	6分		●	
		B センチュウの由来ミトコンドリアの消失	6分		●	
	2	A 神経堤細胞の分化能	7分		●	
		B 根における幹細胞の分裂と分化	7分			●
	3	味覚に関わる遺伝子のはたらき	11分		●	
	4	A ヘビの擬態	5分		●	
B 生態系の物質生産と消費		6分		●		
5	A 分類と3ドメイン説	6分		●		
	B 隔離と種分岐	6分		●		
第4回	1	A 染色体の構造と転写	7分			●
		B チューブリンと紡錘糸	6分	●		
	2	A 減数分裂	5分	●		
		B 表層回転と体軸決定	6分			●
	3	コオロギの生育環境と攻撃性	10分			●
	4	A 生態系の維持	6分		●	
B カカオの菌根菌共生と病原菌耐性		7分		●		
5	A 炭素14法、類人猿と現生人類の特徴	7分		●		
	B 大量絶滅	6分		●		
第5回	1	A 呼吸とアルコール発酵	6分		●	
		B 複製、PCR法	6分		●	
	2	クロキンバエの発生	12分		●	
	3	A 活動電位の発生、興奮の伝導	6分	●		
		B レタスの種子の発芽環境	9分		●	
4	種間競争、食いわけ	9分		●		
5	工業暗化	12分		●		